

平成16年度大台ヶ原自然再生検討会・森林生態系部会
議事概要

- ◆日時 平成16年12月24日(金) 13:30~16:30
- ◆場所 春日野荘 「吉野の間」
- ◆出席者 検討委員/11名中10名出席(長嶋利用対策部会長を含め)
関係機関/奈良県農林部森林保全課、上北山村、吉野きたやま森林組合
環境省/近畿地区自然保護事務所長、他

◆議事

- (1) 大台ヶ原自然再生推進計画(案)について
(今年度の調査結果及び取組みを含む)
- (2) その他

◆議事概要 (会議は公開で行われた)

議事(1)

- 資料に基づき、「大台ヶ原自然再生推進計画(案)」の全体的な説明、地域説明会及び意見募集結果についての報告とその対応について説明。その後、今年度の調査結果及び取組み状況を織り込みつつ、森林生態系部会に関する項目について説明。
- 同計画(案)については、下記のような委員指摘事項を踏まえ、事務局で座長等と相談しつつ修正した上で、親検討会に提出することとなった。

(第2章2. 自然環境の現状と課題(2) これまでの森林衰退の経緯、(3) 森林の更新に関する問題点、(4) 森林の衰退に伴う野生動物の生息環境の変化 について)

- 資料2「植生タイプ別調査」に基づき今年度調査結果を報告。
- 委員からの主な指摘
 - ・「母樹」と「林冠構成樹種」など用語の使い分けを明確にすべき。
 - ・環境条件については、実生の発芽条件を調べるためのものであることに留意すべき。

(「大台ヶ原における希少種・固有種の現状と課題」の追加について)

- 資料3「大台ヶ原の地域特性を把握するための調査」に基づき、これまでの調査結果を報告するとともに、大台ヶ原において特徴的な種に着目することの必要性について計画(案)第2章中に織り込むことを提案、了承された。

(第2章3. 利用の現況と課題について)

- 資料4「利用による自然環境への影響調査」に基づき、今年度調査結果を報告。
- 委員からの主な指摘事項
 - ・土壌硬度の評価は、土壌硬度計の結果だけでなく、土質の違いも含めて判断すべき。

(第3章 これまでの対策等の評価分析について)

○資料5「これまでの対策等の評価分析」に基づき、今年度実施した木道の効果確認調査の結果を報告。

○委員からの主な指摘事項

- ・木道の設置目的として土壌流出防止も並べてあるが、土壌流出を防ぐような構造になっていない箇所もあり、防げたとしてもそれは2次的な効果にすぎない。
- ・立入防止柵の効果についても検証すべき。
- ・調査の結果は、計画(案)の中に盛り込むべき。

→資料5は十分な整理ができないまま提示してしまった。ご指摘を踏まえ修正した上で、その内容を計画(案)に盛り込む。

(第6章 1. 森林生態系保全再生計画について)

○資料6「森林生態系保全再生に関する実証実験の着手について」に基づき、今年度取組み状況を報告。

○委員からの主な指摘事項

- ・当該実証実験の考え方などに関し、過去の調査結果に基づく知見等を引用すべき。(他の部分についても同様の指摘あり)

(第6章 2. ニホンジカ保護管理計画について)

○資料7「平成16年度ニホンジカ影響軽減対策の実施状況」に基づき、今年度の取組み状況について報告。

○委員からの主な指摘事項

- ・生息密度調査結果などデータが揃ってきたので、平均だけでなく可能であれば分散などのデータも追加すべき。

(第6章 3. 新しい利用のあり方推進計画について)

○12月14日に開催された利用対策部会の結果について報告。長嶋利用対策部会長より、検討経緯について補足説明、「部会アピール」(参考資料4中資料3別紙)について報告があり、今後は森林生態系部会と緊密な連携のもと具体的な議論を深めていく必要性についてコメント。

○委員からの主な指摘事項

- ・部会アピール中に「複合的な要因による森林の衰退」とあるが、その主な要因であるニホンジカによる食害について明示すべき。

議事(2)

○参考資料3「ボランティア参加による取組み」に基づき報告。

○委員からの主な指摘

- ・計画(案)の中で「多様な主体の参画」を謳うのであれば、ボランティアによる取組み状況も紹介すべき。

その他

- 傍聴に訪れていた利用対策部会委員より、木道の効果確認については、利用対策にも関わる事項であるとの意見があり、資料5について（不備があったため修正の上）利用対策部会委員にも送付し、意見を伺うこととした。

[文責 近畿地区自然保護事務所]